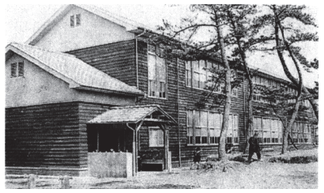
松浪地区さんぽ道 ～松浪小学校誕生物語3～

元松浪小学校教頭　鴨志田　聡

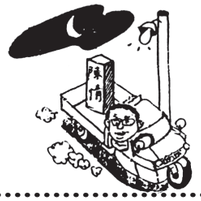
松浪小の開校をいかに保護者・地域の方々が強く望んでいたのか前回紹介しましたが、今回は学校開設までに至る地域の方々の努力の様子を平成8年（1996）PTA広報誌特集『松浪小学校の生い立ちとあゆみ』に収録されている初代PTA会長・小沢与八氏の回想を紹介します。正確な内容をお伝えしたく、また、広報誌特集号作成に携わられたPTAの方々の思いも感じていただきたいので、発行された当時の紙面のまま掲載することにしました。



開校当時の校舎（昭和32年）

夜討ち朝掛けの陳情

市長や県議会議員、教育委員のところには、とにかくよく足を運びました。役員三～四名が私のところのオート三輪（小沢氏は小沢輸業を営まれ昼寝をと）で、朝は五時頃から夜は一一時、一二時頃、時にはもう蚊帳を吊ってあるところに行き、それでも会ってくれと言って。今ではとてもこんなことできませんが、当時はそれでも話を聞いてくれましたよ。



校舎・三案

開校したら、次は校舎。子ども達のことを考えると、とにかく早く校舎を用意しなくちゃならない。用地の確保のために、神戸銀行の東京支店へ何度も陳情に行きました。校舎は、磯崎校長が円形校舎がいいと言って、まあ、いろいろな所に見に行きました。結局、木造二階建て、鉄骨耐火建築、鉄筋コンクリートの三案がでまして、当時で、木造が三六〇万円くらい、耐火建築が二五〇万円くらい、鉄筋が一六〇〇万円くらいでした。鉄筋は高すぎるということでダメになり、二案が残りました。私は、多少の上乗せで耐火建築ができるならそれが良いと思い、差額分は自分が何とかするからと市長に掛け合ったんだが、最終的には予算の都合で木造となりました。とにかく、校舎づくりと備品づくりをやらなきゃということで、先生も父兄も一所懸命だった。

私にとって　松浪小は…
　とてもなつかしいところ
初代PTA会長　小沢与八氏の話より

廃品回収

その頃、市は赤字財政で、松浪小の予算は年間二〇万円（昭和三一年）ぐらい。これじゃ何もできないというんで、みんなで廃品回収に頑張りました。校長も作業服を着てリヤカーを引いてた。当時は高く引き取ってくれて、一回が普通一〇万円。多い時は一五万円ぐらいになったかな。それで学校の備品を揃えていった。最初のテレビや給食場の自動食器洗浄機、今も残ってると思うけど校長室の金庫なんかもそうです。

父兄もみなさん熱心で、ＰＴＡの総会やなんかは昼間でしたが役員会はほとんど夜でしたよ。先生方には「子ども達のことだけ考えてくれ、他の事は私達で何とでもする」というようなことで皆一所懸命でした。先生方も茅ヶ崎一の小学校にするんだという気概にあふれていましたよ。

強引に実現

用地のあてもないところからの出発で、全く無謀な話なんだが、事を起こしてせっぱ詰まった状況をつくって何とかしてくれと掛け合うやり方で、強引に事を運ばないと実現しない時代だったんですよ。立て替えのため、木造校舎が取り壊される時は、私もよばれて磯崎校長と立ち会いましたが、感慨深いものがありました。

私にとって、松浪小は…
とてもなつかしいところです。

小澤与八（79歳）
自宅の縁側で、奥様と（平成7年9月）

編集後記

コロナの感染状況が劇的に落ち着きを見せ、松浪朝市も再開されています。まだまだ油断はできませんが、早く日常を取り戻したいですね。今年から連載が始まった松浪小学校誕生秘話。次号が楽しみです。（刈間）

いつもまつなみだよりを楽しみにしてくださっている方がいると思うと編集にも気合いが入ります。私たちも楽しく、編集会議の中で「あれはどう？これは？」など考えながら取り組んでいます。これからも皆様に読んでいただけるような記事を載せて行きたいと思っています。（川田）

まつなみだより

令和３年12月15日発行（第24号）
発行：松浪地区まちぢから協議会
ＨＰ：https://matunami.jimdo.com/
印刷：（有）仲手川印刷

会長あいさつ

松浪地区まちぢから協議会　会長　前田　積

コロナウイルス感染防止に追いかけられた一年でした。ワクチン接種が進み、マスク越しの会話が終わり笑顔を見ることが出来るのはいつになるのでしょうか？

松浪地区まちぢから協議会としても、昨年同様ほとんど活動の出来ない一年でした。しかし、そのような中で、松浪小学校３年生担当の先生より「社会科総合学習で松浪コミュニティセンターの見学ができないか？」との相談を受け、「いつでもお越しください」と返事をしたところ、すぐに160名の来館が決まりました。

当日、屋上に上がり江の島灯台や富士山等の説明をしていると、隣の消防署で訓練が始まりました。消防署のご厚意で間近で訓練を見られることになり、子ども達は大喜びでした。見学後、地域への植栽活動の一環として松浪コミセンにたくさんのマリーゴールドを植えてくれました。松浪コミセン以外にも公民館や公園など数か所に植栽してくれて、私たち地域住民の心を明るくしてくれました。

植栽のお礼として、松浪地区まちぢから協議会より感謝状を差し上げました。

１０月には文化庁伝統文化親子教室事業の一環として、『日本を学ぼう！「ゆかた」』と題し、小和田公民館と共催で事業を実施しました。参加者の皆様は、ゆかたの着方や挨拶、立ち方、座り方、歩き方、お箸の使い方を楽しく学ばれました。

１０月２３日の早朝には、まちぢから協議会７ブロック合同での海岸清掃が行われ、松浪地区は１００名余りの大勢の方にご参加いただきました。皆様のご協力に感謝いたします。

松浪地区まちぢから協議会から感謝状をいただきました

松浪小学校　校長　安倍　武雄

３年生が、松浪地区まちぢから協議会から感謝状をいただきました。感謝状を一人一人が手に持って写真撮影をしたりして、まるで全員が１枚ずついただいたかのように大喜びしています。

総合的な学習の時間で「笑顔のお花いっぱいプロジェクト」が立ち上がりました。海浜公園から依頼を受けてマリーゴールドの植栽を行い、さらにその苗をたくさんいただきました。「みんなが笑顔になるには？」と子ども達が相談する中で「近くの公園に植えて、来た人がお花を見て笑顔になるといいな」という意見から、この活動に取り組むことになりました。

市役所公園緑地課と各自治会長の皆様にもご快諾いただき、５クラスで、小和田公民館、松浪コミセン、ぐるぐる公園、松浪緑地、浜竹公園、すずめ公園など８か所にマリーゴールドのプランターと「このお花を見てみんなの心があたたかくなるといいな」など、子ども達の願いを込めたプレートを配置させていただきました。

子ども達が「みんなのために何かできることはないか」と考えて実行したことを「感謝状」という形で地域の皆様に認めていただけたことは、「私たちも地域の一員なのだ」という自覚を持つきっかけになり、大変ありがたく思っています。

今後も子ども達の活動を温かく、そして時に厳しく見守り、声をかけていただければと思います。

コロナ禍で市民集会に代えて「松浪地区会議」を実施

松浪地区まちぢから協議会　副会長　末松　一豊

これまで、地域の一般市民の皆さまと行政幹部とが一堂に会して直接意見交換をする「市民集会」を恒例行事として開催してきました。

しかし、昨年来のコロナ禍の為に、集団で話し合ったり行動することが制限されてしまい、昨年度の市民集会は早々に中止となりました。「今年度こそは」と開催を目指しましたが、繰り返し感染の波が襲ってきて数か月先の集会が不透明でした。

そんな中、市民自治推進課より「モグラ型」（地域課題を深掘りして解決）と「ドリーム型」（夢を語り合い地区の将来について意見交換）の２通りの市民集会の方法を提案されました。そこで、松浪地区では地域と市の課題に絞って参加者を限定した「モグラ型」として、「松浪地区会議」を開催することにしました。

7月から1ヶ月間意見募集をした結果、２５件の意見書が集まりました。

概略、(1)市営駐車場の有料化、常盤町交差点スクランブル化、(2)ごみの戸別収集、小型パッカー車導入、有料化、開発案件での集積所問題、(3)新型コロナウイルスワクチン接種システム、(4)積極的疫学調査推進、(5)市の財政、(6)なぎさ事務所の展示物、(7)空き家データ、火災予防、学校・地域の安全、(8)しおかぜ号再開、(9)避難行動要支援制度、(10)通行路の凸凹整備

こうした意見要望書を整理し、「モグラ型」の「松浪地区会議」のテーマを「生活環境関連」とし、議事次第を①ごみ有料化について、②戸別収集、③その他に決めました。

参加者は、行政側から市民自治推進課・環境事業センター・資源循環課及び松浪地区まちぢから協議会から運営委員３２名、開催日を9月11日（土）午後の９０分間限定で開催することに踏み切りました。

当日は、行政からの来年４月実施予定の「ごみ袋有料化」のプレゼンと「戸別収集」要望への補足説明を皮切りに、地域住民から提起された松浪地区会議提起事項を参照しながら、活発な質疑と意見交換がなされました。まとめを市民自治推進課三浦課長にお願いしました。

初めての「地区会議」の取り組み、行政と地域が課題を共有することの大切さを確認して閉会となりました。

まちぢから協議会海岸清掃

緊急事態宣言のため延期となっていた「まちぢから協議会海岸清掃」が10月２３日のお天気の良い日曜日に、茅ヶ崎の海岸で行われました。

さわやかな朝、小和田浜公園前の海岸に１１０人もの地域の方々が集まり、ごみ袋を片手に熱心に海岸のごみを拾っていました。不燃ごみはほとんどありませんでしたが、燃やせるごみが十数袋分回収されました。コロナ禍でイベントが中止となっているため、みなさん久しぶりに挨拶を交わしたり、おしゃべりをしたりして作業をしました。「おはようございます」「お疲れ様です」「久しぶりですね」「お元気でしたか」「ありがとうございます」などとみなさんの声が飛び交います。

地域のみなさんで一緒に海を綺麗にすることがこんなに楽しいものだろうか、こんなに大切だったのかということを久しぶりに実感した1日でした。これからも人と人がコミュニケーションを取り合いながら活動する行事が、地域で早く実現できることを願っております。参加していただいたみなさん、お疲れ様でした。

(佐々木記)

地域団体の紹介

松浪中学校　地区防災マップ作り現地調査

松浪中学校　校長　亀田　春彦

1年生は総合的な学習の時間を使い、毎年防災地区マップ作りを行っています。

①自治会の役割や地域の現状を知り、より良い地域にしていくことを自治会の方や保護者とともに考える。

②地域を歩き防災の観点で調査し、現状を把握することを通して防災マップを作成する。

③新たな発見や考え（提案）を伝え合うことによって、より良い防災の方法を考察する。

上の３つを目的とした取り組みは市内でも例がなく、中学生の目線で地域の防災について考えることで、市の防災対策にも大きなヒントを与えています。

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、当初予定していた9月２１日（火）の現地調査を延期し、昨年同様、地域の方の応援をいただかず、学校だけで実施する予定でした。

しかしながら、急速にコロナウイルスの感染拡大が収まったことにより、自治会の方々の応援をお願いしたところ、快く引き受けてくださり、また保護者ボランティアの協力もあり、何とか実施することができました。本当にありがとうございました。

11月11日（木）当日は、絶好の晴天の中、３８のグループ（１グループ4～5人）が現地調査を行いました。

本来なら、消防署小和田出張所や松浪コミセン、介護施設や保育園等を訪問して、関係者から説明を受けたりするのですが、今年は各自治会や松浪・緑が浜・汐見台小学校の防災倉庫を見学することを中心に、マップ作りの情報を仕入れました。

現在はマップ作りに取り組んでおり、その成果は2月19日（土）地域ふれあい講座の日に発表をする予定です。

松浪小学校コミセン見学

松浪小学校3年　久保先生

松浪小学校の3年生１６０名は、社会科の『学区探検』、総合的な学習の時間の『笑顔のお花いっぱいプロジェクト』で、松浪コミュニティセンターを訪問しました。コミセンの屋上に上がらせていただき、学区全体を見渡すことができました。「お家の屋根がたくさん見えるね」「自分のお家が見えるね」「学区の南側にはマンションがあるね」など、たくさんのことを学びました。

また、コミセンを訪れた方々が笑顔になってほしいと考え、児童が県立辻堂海浜公園の植栽のお手伝いをしたお礼としていただいたマリーゴールドに、メッセージを添えてプランターに植栽しました。

今回の訪問を通して学んだことを、『私たちにとってコミセンはこんな場所』としてまとめました。訪問したことでコミセンが児童にとって身近な場所となり、放課後や休日などに足を運ぶ児童が多くなりました。これからもコミセンは、松浪小学校の児童の身近な公共施設としてあり続けることと思います。

汐見台小学校コミセン見学

汐見台小学校3年　本城先生・松島先生

11月16日（火）に、汐見台小学校の3年生が松浪コミュニティセンターの見学をしました。社会科の授業にて、学区を中心とする地域について学習を深めました。子どもたちにとって、松浪コミセンは遊び場として馴染みがあったものの、地域の中でどのような役割を担っているのかは考えたこともなかったようです。屋上から周囲の様子を見渡し、館長の前田さんに館内を案内していただきました。屋上では、少し雲もありましたが遠くの富士山や江の島、学区探検で見つけた様々な建物を俯瞰で見ることができ、子ども達もまた新しい発見ができました。また、館内にて地域の方が習い事や勉強に訪れている姿を見て、「午前中に来たことがないから知らなかった」「なみっこ以外にもこんなにいろいろあるんだね」と感想を話していました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、なかなか出かけることができなかった中、ようやく校外に出て「ホンモノ」に触れて学びを深める貴重な機会になりました。